一般社団法人石川県造園緑化建設協会

緑化建設協会だより

No.40
2024/5/27

令和6年 石川県造園緑化建設協会として ――― 会長　後　秀夫

令和６年１月１日に発生いたしました能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族に心からお悔やみを申し上げます。日々テレビや新聞で被災地の状況を目にいたしますと、その被害の大きさと深刻さに胸が痛みます。

石川県造園緑化建設協会としては、震災後早々に災害対策本部を立ち上げ、石川県と災害協定を締結いたしました。今後とも被災地からの支援要請に応え、復旧復興に協会会員心をひとつに尽力して参る所存でございます。一日も早く、能登の皆様に、穏やかな生活が戻りますことを祈念しております。

私といたしましては、はやる気持ちを抑え能登に行く機会を得たのは３月上旬でございました。奥能登に近づくにつれ、能登の古くからあった美しい景色が一変し、思わず言葉を失いました。

奥能登に着いて、会員の皆様にお会いした際には、何とお声がけしてよいか分からなかったのですが、皆様の方から明るい声で話しかけてくださいました。「能登はやさしや土までも」とは言いますが、ご自身が辛い場面でも、まず他人への気遣いができ、人情味豊かな人が多く、災害に負けず苦しいときは支え合い、嬉しいときは皆で喜び合える、そうした事が当たり前のように出来る。本当に能登の方々はお強いと感じております。

そんな能登を我々はあきらめない。長い期間を要するかもしれませんが、元通り、いや、更に若い人が移住したくなるような魅力的な能登にするべく私たち造園業界にも出来ることが必ずあると思っております。県協会として「オール石川」で能登の復旧復興、能登の未来が素晴らしいものとなるように、石川県造園緑化建設協会は全力で支援して行きます。

また、これからは、我々石川県造園緑化建設協会がこれまでの経験を存分に活かし、地域住民の皆様とも話し合い、新しい視点から地域のコミュニティー形成はもとより、このような大規模災害にも対応することができる機能をしっかりと備えた公園緑地の計画を立案し、関係各機関に働きかけ、地域に貢献していくことが大切な役割と考えております。

最後になりますが、能登・金沢・加賀の全協会員が一丸となって、令和６年度は、まずは能登半島地震への支援事業を最優先に、また引き続き、技術力向上のための講習会や後継者育成のための取り組等の事業にしっかりと丁寧に取り組んでいきたいと思いますので、会員の皆様、引き続き協会の活動にご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願いいたします。

ノトキリシマツツジ

広島視察研修

(株)金沢レインボー　茨木　一樹

令和５年11月15日～11月16日の２日間の日程で広島へと研修旅行に行ってきました。

１日目は、平成26年８月に起こった広島豪雨土砂災害の現場と広島豪雨災害伝承館に行き、当時の状況と今の状況を学んできました。

復旧現場では、国土交通省の地方整備局の職員に話を聞き、災害による恐ろしさを教えていただきました。

豪雨災害現場（国土交通省職員の現地説明）

伝承館では、「見る」「聴く」「学ぶ」をテーマにした体験をさせていただきました。特に土石流のCG映像を含めたガイダンスでは、土砂災害の恐ろしさが伝わる内容となっており、大切な学びが分かりやすく展示されていました。

２日目の午前中は、呉市にある大和ミュージアムと日本遺産アレイからすこじま公園に行きました。大和ミュージアムの周りには実物の潜水艦があり圧巻でした。

まず大和ミュージアムに入ってすぐの『大和ひろば』には、全長263ｍの「大和」の10分の１スケール、26.3ｍもある巨大な戦艦大和の模型が展示されており、ものすごい迫力に圧倒されました。

日本遺産アレイからすこじま公園では、普段見ることのない潜水艦などを見学できてとても興奮しました。

午後からは、原爆ドーム、広島平和記念資料館に行きました。原爆ドームは教科書やメディアなどで建物のフォルムは目にした事がありますが、いざ実物を見るととてもいたたまれない気持ちになります。後から調べましたが「二度と同じような悲劇がおこらないように」と戒めや願いを込め、「負の世界遺産」とも呼ばれているそうです。

負の世界遺産である原爆ドームを通じて、平和がどれだけ大切なことか、戦争がどれだけ悲惨なことか、改めて厳しい現実を痛感しました。

原爆ドームを見終わった後は、平和記念公園を歩き、日本造園建設業協会の副会長でもあります、みずえ緑地株式会社の正本様からいろいろ教えていただきました。終戦後の翌1949年に都市計画公園に指定され整備が始まり、1949年に「広島市平和記念公園及び記念館競技設計」のコンペを経て、現在ある素晴らしい公園の形になったと聞きました。

最後に、広島平和記念資料館に行き、強く思ったことは、大人になった今、とても大切な場所であり、後世に伝えるべきものであるということです。今もなお続く戦争・核の恐ろしさを感じる現在、戦争の終わりを願い、一刻も早い世界平和祈ります。

今回の研修旅行では、なかなか考えさせられる研修になったと思います。

この研修でご案内いただいた正本様、事務局・委員会、理事の皆様には貴重な体験をさせていただいて、感謝を申し上げます。

平和記念公園

大和ミュージアム

出前講座（法面）

（株）ロードマネージメント　太田　勝英

令和５年 10 月 20 日翠星高校　環境科学コース環境設計分野生徒 18 名（２年生）を対象に法面部会活動として、出前講座を実施させていただきました。実施内容は３～４限目（午前）で株式会社中部地下開発　荻野課長による「法面工事とは？」との題目で法面工事業者の仕事の種類、災害復旧工事で安全にここまで復旧できますと言う説明をし、また法面工事のＩＴＣ施工、働き方改革における取組など、わかりやすく説明していただきました。４限目に若手社員の１日と題し、株式会社ロードマネージメント　太田主任による自社での日常の仕事として、１日の仕事の流れ、資格取得の重要性、先輩・上司からのアドバイスの受入れ方など、わかりやすく説明していただきました。また、４限目の最後の方で「午前の部・会社説明」と題し、株式会社中部地下開発さん・株式会社リターングリーンさんに生徒さんの順で、生徒さんたちに向けて会社説明をしていただきました。５～６限目(午後)は、簡単なロープの結び方、ロリップ（法面昇降機具）　法面用安全帯の使い方として、事前に根石先生にお願いし、翠星高校の３年生に実習棟内に単管うまを作成していただき、巻き結び・もやい結び・フルハーネス付き法面安全帯を使用して、参加部会員による指導をさせていただきました。最後に「午後の部・会社説明」として、株式会社ロードマネージメント・緑伸工業株式会社さん・北川緑化工業株式会社さん・北造園株式会社さんの順で会社説明を行い、無事に終了しました。出前講座を行った感想として、話だけを聞く、ということが、今どきの生徒さんでは難しいと思い、スライド・動画などをおりまぜて、作成したのが良かったと思います。また、午後の部のロープ実技では、生徒さんが興味を持ち、やっていただけたのが印象に残っております。事前の打合せで根石先生の方から、会社説明もやってもよい、とのお声がけをいただき、大変ありがたく思いました。生徒さんたちの質疑応答では、休日はあるのか？、給与はいくらぐらいなのか？、と言う質問が多く、今どきの考え方だなと痛感しました。今後、各専門学科を持つ高校で法面部会として、出前講座活動を続けていきたいと思います。

出前講座（法面）

出前講座（法面）

会社紹介

ロープ講習

会社紹介

翠星高校との現場研修会について

(有) 兼六造園　中田　祐貴

令和５年９月 11 ～ 13 日にわたり、翠星高校の生徒（２年生 28 名）を迎え、協会初となる現場研修会を行いました。例年であれば数社に依頼がありインターンシップを行っていましたが、今年は協会・高校が協力して研修会を行う事となりました。生徒側でも友達同士で色々な作業を体験する事が出来たので負担も減り、得る物も多かったように思います。また、研修では県職員の杉岡次長も参加して頂き、複数の新聞社による取材もあったので、他業界へのアピールにもなったかと思います。

現場視察（二の丸）

初日は、現地説明を行い、翠星高校２年生と３年生も３名参加しました。見学場所は金沢城・兼六園、金沢港、中央病院、新県立図書館の４箇所を一日かけて見学しました。金沢城は杉岡次長・図書館は清坐専門員にご説明頂いたのですが、主に工事の特徴や年間の管理内容など造園の実務に即した内容を話して頂きました。昔からある自然公園と新たに建物と合わせて造成した緑地・都市公園との違いを僅かでも感じ取ってくれたら嬉しく感じます。

現場視察（玉泉院丸）

現場視察（金沢港クルーズターミナル）

現場視察（県立図書館）

二日目・三日目は北部公園にて研修を行いました。多数の協会員の協力のもと、「造園管理」、「測量」、「竹垣」、「人工芝・ガビオン」の４グループに分かれ実際の作業を体験して貰い、ドローンの実演も見学しました。「造園管理」では、年間管理の内容、リールモア等の芝刈り機の実演、高所作業の見学、低木の刈込み体験などを行いました。高校でも乗用の草刈り機や刈込みは行った事があるようでしたが、大型の芝刈り機や高所作業は珍しいようで興味深そうに見学していました。「測量」では、トランシット・レベル・杭ナビの体験を行いました。高校では土木のコースではしっかり学ぶそうですが、造園では機会も少なく初めて行う作業のようでした。地味ではあるが実際に何もない状態から造るには必要な作業である事を分かってくれたかと思います。生徒の話を聞くと、最近では主流になっている杭ナビも便利・使いこなせそうとの心強い意見も多く、新たな技術に対応するには若い力も必要だと感じました。「竹垣」では、造園技能士３級の課題の竹垣の講習を行いました。まだ授業では習っていないそうですが、来年夏の資格取得に向けて授業が始まるそうです。実際に体を動かして、自分の手で作り上げるのが楽しく感じられるようでした。「人工芝・ガビオ

生徒集合

ガビオン・人工芝

測量

造園管理

造園管理

竹垣

ン」では、人工芝の家庭用・競技用の違い、施工方法と実際にガビオンの作成を行いました。ガビオンは実際に枠の組立てと中の自然石の詰込みを体験して貰ったのですが、生徒達には一番人気のある研修となりました。パズル感覚なのかキッチリと石同士を隙間なく綺麗にはめ込むのが楽しかったようです。

研修を通して、正直なところ生徒達には、造園の現場作業よりも、エアコンの効いた屋内での職業の方が魅力的なのではないか、と思っておりました。しかしながら、話をすると一日座っているよりも実際に体を動かす方が良い、との話もたくさん聞く事ができました。また、翠星高校の教員の方々のお話を聞くと、現在は環境科学コース（土木・造園）・生物資源コース（農業・園芸）・食品科学コースがあり、約 160 人の生徒数の中で食品と土木に希望する人が多いそうです。（造園は今年 28 人、昨年３人）例年、１年生の夏頃にどのコースに進むか選ぶそうなので、その前に少しでも造園の魅力を伝える事が出来れば、全体の志望者数を増やすことが出来るのではないかと思います。

残念ながら、若い子はすぐに仕事を辞めてしまうという話も良く聞きます。研修では興味を持って楽しそうに作業を行ってくれたので、同世代の人数や休日を増やすなど、仕事の内容以外で少しでも離職を防ぐ工夫が必要かと感じました。今回の研修は、人手不足改善の為の若い世代へのアピールと、事前に仕事内容を知って貰い離職率を下げる為、大変意義のある事だと感じました。今後も造園業界として多くの魅力を発信し、若い世代への門戸を広げ活気ある業界となってくれたらと思います。

出前講座（造園）

（有）浦造園　浦　誠

令和６年３月 15 日に石川県立翠星高校にて環境科学コース　造園分野の生徒24名を対象に「グリーンインフラについて」の出前講座を行いました。

講師は当協会松原氏が務め、講義の内容は、グリーンインフラの概要や経緯、SDGs との関係などであり、特に各都市での事例や金沢市緑のまちづくり計画、これからの課題についてなど、生徒達は大変興味深く聴いておりました。

出前講座（造園）

労働安全衛生講習会 ―― 北川緑化工業（株）　日向野　智司

令和５年８月29日に労働安全衛生に関する講習会を金沢市異業種研修会館で開催しました。講師は石川労働局健康安全課長の宮野寛之氏、石川県金沢西警察署交通第一課長の高崎幸太郎氏が務め、約50名が講演を聴講しました。

冒頭、後会長は、「非常に暑い日が続いている中、現場で頑張っている皆さまの仕事には危険なことが多々あるかと思う。講義から得たことを早速反映して安全な作業を行ってほしい。」と挨拶されました。続いて宮野氏の講演が始まり、労働局が策定した2018年度を初年度として、５年間にわたる第13次労働災害防止計画の結果や、労働災害発生状況の推移などについて説明していただきました。災害で大きな割合を占めている墜落・転落、転倒災害の防止対策のほか、造園業界特有の移動式クレーンやはしご、脚立使用における注意点について解説され、リスクアセスメントを実施する際には「現場で作業に入る前に計画を作成してほしい。」とアドバイスをいただきました。

高崎氏の講演では、「工事車両等の安全管理について」と題し、工事車両の交通安全管理などのポイントについて講演いただき、金沢市内で発生した交通事故の事例や、死角から起きる事故の危険性を説明していただきました。

今回の講演会で、自主的な労働安全衛生管理活動の大切さを見直し、適正に対応していかなければならないと実感しました。

労働安全衛生講習会

現場の位置情報活用等講習会 ―― （株）松原造園　松原　大介

令和６年２月29日に「現場の位置情報活用等講習会」を金沢市異業種研修会館で開催しました。内容は電子小黒板（サイトボックス）を活用した現場の位置情報確認と写真管理の効率化、時間外労働上限規制についての説明、また、スマート大臣・杭ナビ・快測ナビの活用によるDX化の推進であり、講師は㈱建設システム、㈱パナックで約30名が講演を聴講しました。

現場の位置情報講習

編集後記

今回の震災では当協会の会員にも被災された方々が多くおられます。

特に能登地区は被害が大きく、あれから半年近く過ぎましたが、現在も損傷した家屋や事業所が被災当時そのままの状態で、お仕事を継続されている方もおられると伺っております。被災された方々の１日も早い復興、そして被災された皆様の生活が１日も早く平穏に復することを心よりお祈り申し上げます。

最後になりますが、今回記事や写真を提供して頂いた皆様方、ご協力ありがとうございました。

発行　一般社団法人
石川県造園緑化建設協会
総務企画部会
〒920-0376
金沢市福増町北840番2
TEL　076-269-1110
FAX　076-269-1279
発行責任者　松原　大介